2024 年 4 月 2 日

経　済 Topics

■大分県内の最新経済動向について

大分県内の経済は弱含みとなっています。製造業の一部に弱さがみられ、小売店販売や乗用車販売も横ばい圏内で推移しています。観光業は、引き続き回復しています。

今回のテーマ　大分トリニータに関するアンケート調査

■はじめに

当研究所では、県内の大分銀行の窓口に来店されたお客さまを対象に毎年大分トリニータに関するアンケートを実施しています。今回は大分トリニータの 2023 年シーズンの評価や、2024 年シーズンに対する期待などについて調査しました。そのアンケート調査の結果についてご紹介します。

■2023 年シーズンの評価について

2023 年シーズンの活躍度を５点満点で尋ねたところ、活躍度の平均点は 2.9 点となり、2022 年シーズンと比較すると 0.3 点低下しました。リーグ前半戦を J1 自動昇格圏内の２位で折り返す活躍を見せましたが、後半戦は接戦の末に勝ち点を取りこぼす試合が続き、最終順位は９位と J1 昇格を果たすことができませんでした。今回の評価は、リーグ前半戦の活躍と J1 昇格を逃した結果が反映されたと考えられます。

■ホームゲームの来場者数について

2023 年シーズンのリーグ戦のホームゲームの総入場者数は 193,232 人と 2022 年シーズンから約５万 4,000 人増加しました。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「５類」に移行するなど、コロナの影響が落ち着いたことが入場者数の増加に寄与したとみられます。

2023 年シーズンに会場で１試合以上観戦した人に対してその理由を尋ねると、「家族・友人・知人に誘われたから」が最も多い結果となりました。40 代以上は「トリニータのサポーターだから」などの自発的な理由が多く、30 代以下は「チケットをもらったから」などの受け身な理由が多い結果となりました。

一方で観戦に行かなかった人に対してその理由を尋ねると、約５割が「Ｊリーグ自体に興味がないから」と回答しています。観戦者をさらに増加させるためには、Ｊリーグへの興味・関心を高める取り組みや若い世代が自発的に観戦に向かうような取り組みが必要になると考えられます。

■2024 年シーズンの観戦意向について

2024 年シーズンの観戦意向を尋ねたところ、約５割が「行くつもりはない」と回答しています。この結果は、J3 に降格した 2016 年シーズンに次ぐ過去２番目に高い水準で、観戦意向の低下がみられています。一方で、１試合以上観戦したいと回答した人の割合を年代別に見ると、20 代が最も多く、次いで 30 代、40 代と続いており、若い世代ほど観戦意向が高い傾向がみられています。

■観戦客数増加のためには

2024 年シーズンは観戦に行くつもりがないと回答した人に対して、どのようなきっかけがあれば観戦に行くかを尋ねたところ、「家族・友人・知人に誘われたら」が前回調査と同様に最も多い結果となりました。「トリニータの成績が良ければ」との回答も約２割と、成績次第では観戦に行きたいと考える人も一定数いることが分かりました。昨シーズンのホームゲーム入場者数の動きを見ると、J1 昇格圏内の順位を維持していたリーグ前半戦の平均入場者数が約 9,600 人だったのに対し、後半戦は約 8,600 人まで減少しています。J1 昇格争いに絡む順位を維持することが、観戦者数を保つうえで重要であると考えられます。

■2024 年シーズンの大分トリニータへの期待について

2024 年シーズンの大分トリニータにどのくらい活躍してほしいか尋ねたところ、「J1 自動昇格圏内の２位以内に入ってほしい」との回答が最も多く、次いで「優勝してほしい」、「J1 昇格プレーオフ圏内の３位～６位以内に入ってほしい」と続きました。６位以上の成績を期待する回答が約９割を占めており、多くの県民が J1 への昇格を強く望んでいることが分かりました。

■おわりに

2023 年シーズンのトリニータは「繋（つなぐ）」をチームスローガンに掲げ、J1 への復帰を目標に戦いました。一時はリーグ首位に立つなど、活躍も見られましたが、残念ながら J1 復帰とはなりませんでした。2024 年シーズンは 2016 年から６シーズンにわたりトリニータの監督を務めた片野坂知宏氏が新たに監督に就任し、新生「カタノサッカー」で J1 復帰を目指します。クラブ創設 30 周年となる今シーズンのスローガンは、チーム名の由来でもある「三位一体」です。クラブやサポーターはもちろん、県民、企業、行政が思いを一つにして戦い抜き、J1 復帰を成し遂げてほしいです。

（提供：㈱大銀経済経営研究所）